

R7.12

舞鶴ふるさと発見館

舞鶴市郷土資料館だより

★舞鶴市内の学生は入館無料です★

学芸員が選ぶ
今月の一品

ミュージアム
トーク

12/21 (日)

13:30～14:30

加佐郡役所の瓦について

展示室にて実施

★参加費無料

★問い合わせは郷土資料館 (75-8836) へ



「加佐郡役所の鬼瓦」

現在、西地区にある旧市民会館跡地では発掘調査が行われています。ここには明治32(1899)年から大正12(1923)年まで「加佐郡役所」がありました。舞鶴で加佐といえ、由良川流域の加佐地区を思い浮かべるのではないのでしょうか？現代人にとってなじみのない「加佐郡」ですが、始まりは古代にさかのぼります。白鳳時代^{はくほう}から昭和に至るまで、いまの舞鶴市域が「加佐郡」と呼ばれた歴史があります。明治時代から大正時代に、その郡の行政を担当した役所が加佐郡役所です。郡役所はその後舞鶴市役所西支所に再編され、現在に至っています。

加佐郡の始まりは古代？

現在の舞鶴市周辺を指していた「加佐郡」のルーツは、約1300年前、古代の律令制度にさかのぼります。最も古い形は、7世紀半ばに地方行政区画として置かれた加佐評（かさのこおり）でした。評（こおり）は当時の行政単位です。

8世紀初めに大宝律令が制定されたことで「評」が「郡」に改められると、正式に「加佐郡」が誕生しました。以来、加佐郡は長く舞鶴市域を指す名称として使われ続けました。

サロンスペース展示 ～舞鶴のお地藏さんを訪ねて～



サロンスペースでは寺田美喜雄さんの写真展を開催いたします。11月5日から7日までまなびあむで開催された写真展の中から一部を展示します。コツコツと舞鶴を訪ね歩いて撮りためたものです。



糸井文庫コーナー 12月のテーマ

糸井文庫は糸井仙之助が集めた丹後関連資料（約2200点）です。中でも丹後の伝説を描いた浮世絵が約200点あります。そこで、当館では毎月テーマを決めて糸井文庫の浮世絵を紹介しています。

浦島帰国の図

ここらで一区切り

令和七年もいよいよあと一月となりました。戦後八十年や大阪関西万博などいろいろなことがありましたね。最近では手帳も十月はじまりが増えて一月にリセットすることが少なくなりましたが、やはり、ひとつ区切りをつけましょうか？浦島もいったん竜宮城から帰国して次のステップへ向かいます。今月は浦島帰国の図を集めました。様々な浦島太郎の姿をご覧ください。



玉手箱を浦島でなく亀に持たせているところが珍しい

「浦島太郎」 三代目歌川豊国 糸井文庫
うらしまたろう さんだいめうたがわとよくに

★西舞鶴駅から徒歩10分★



舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）

開館時間 9:00～17:00（最終入館16:30まで）

今月と年末年始の休館日

1日（月）・8日（月）・15日（月）・22日（月）・
29日（月）から1月3日（土）まで

〒624-0853

舞鶴市字南田辺1番地

西総会館 1F北側

TEL 0773-75-8836 FAX 0773-77-1314

入館料

大人 100円

舞鶴市外の学生
50円

★舞鶴市内に居住または通学する学生は入館無料です★